

インみたか通信

発行：NPO法人障害者生活支援センター インみたか

ねんはるごう
2019年春号 (なんぼー N o. 46)

発行日：2019年2月25日

「ピンクの車椅子と一緒に歩く」

かわて はるお
川手 晴雄

わたし みやぎとわこ きょうちよ くるま まち ふうけい ねんど
私と宮城永久子さんの共著「ピンクの車いすを街の風景に」が2018年度
にほんじ ひしゅつばんぶんかしょう こじんしぶもんしょう じゅしょう ぜんこく やく さつ
「日本自費出版文化賞 個人誌部門賞」を受賞しました。全国から約600冊もの
おうぼ なか じゅしょう すば おも
応募のあった中からの受賞ですので素晴らしいことだと思います。

まち しょうてん しょうがいしゃかんけいしよせき しょうがい も
街の書店には「障害者関係書籍」コーナーがあります。さまざまな障害を持った
ひとびと みづか にちじょうせいかつ しょうがいしゃ い
人々が自らの日常生活や障害者としての「生きづらさ」=バリアフリーがまだま
かんぜん しゃかい か しば
だ完全ではない社会について書いています。それはそれでとても素晴らしいことす
おお ひとびと よ たいせつ おし
し多くの人々が読むことの大切さを教えてください。

ほんしよ おお みやぎとわこ ひとり にんげん
しかし、本書はそれだけでなく、というよりも多くは宮城永久子さんの「一人の人間
じんせい い しせい か
として人生を生きる」姿勢について書かれています。

きょうちよしゃ わたし ほん か おも じつ
共著者である私がこの本を書こうと思ったのは実はそのことでした。

ねんいじょうまえ みやぎ で あ なんど つ あ
10年以上前に宮城さんと出会い、何度かお付き合いす
るうちに「この人のことを書いてみよう」と考えるよ
うになりました。人間「宮城永久子」の魅力に取りつか
れたのです。この本を書くために彼女に密着し、文を書
き、彼女に「了解」をえる。こんなことを続けている
みやぎ なんと わたし
うちに、宮城さんは「ちがう！ちがう！」と何度も私に
い わたし か きょうちよ
言い、「そこは私が書く」ということになり、「共著」
ほん かんせい
としての本が完成したのです。

このことからみやぎとわこ い かつ
このことから宮城永久子さんの生き方がよくわか
おも
ると思います。



「誰もが働きやすい社会を目指して」

ぼっぷ施設長：金子 洋祐

ぼっぷ職員：宮城 永久子

2018年、省庁及び地方自治体等の公的機関において、障害者手帳の交付に至らないなど障がい者に該当しない者を障がい者として雇用し、障がい者の雇用率が水増しされていた不祥事が発覚しました。この問題を契機として、D P I日本会議（以下、D P I）（※）は、障がい者の雇用と障がい者が安心して働くことができる職場環境と労働条件の整備を求めて、声明文を発表しました。

今回ぼっぷでは、D P Iで事務局次長を務めておられる、白井誠一朗氏と障がい者の雇用問題について意見交換をしました。白井氏は、先天性ミオパチーの難病当事者です。筋力が弱く、外出には簡易電動車いすを使っておられます。

（※）D P Iとは、障がい者の自立生活と権利の確立に向けて活動している。身体、知的、精神、難病などの障がいの種別を超えて、自らの声をもって活動する障がい当事者団体。

宮城：障がい者として雇用されていた方の中には、視力の弱い方や糖尿病の方も含まれていたと聞きますが。

白井：そうですね。でも、その話を聞いて、障害者手帳が雇用の判断基準ではないのは、ちょっと意外だなんて思いました。本人の業務上支障となることによって、雇用の対象かどうか判断されているとすれば、障がい者雇用が医学モデルではなく、社会モデルで考えられていることになる。

宮城：確かに、彼らが働く上で、健康な人たちに比べて不利な状況にあることはわかりますが、彼らまで障がい者雇用の対象になってしまうと、通勤や業務の遂行に介助の必要な重度の障がい者はますます雇用から遠ざかってしまうのではないのでしょうか。

金子：国はまだまだ障がい者が働くことに消極的な気がします。

白井：行政としては、国の税金で介助者を雇って障がい者が自分の収入を得ることは、国民の理解を得にくいと思っているのかもしれないね。

金子：利益…なんですかね？労働に対する対価なのでは？実際に障がい者が働くことで得られる社会的効果もあるわけだし。

白井：いずれにしても、今回の問題が発覚したことで、障がい者採用の応募資格に「自力で通勤できる」「介護者なしで業務遂行が可能」という条件を記載できなくなる。ひいては、障がい者が働くために必要な介助や情報保障等の環境整備をせざるを得なくなる。これからは、私たち障がい者が国や行政に声を上げていく正念場になるかもしれないね。

「新生活、始めました！！」

ぽっぷ職員：宮城 永久子

電動車いすを使用している20代の女性が、昨年11月から三鷹市内のグループホームにて、新生活を始めました。彼女は芯のしっかりした方です。今回、そんな彼女に新生活を始めてみての感想を伺ってきました。

Q. グループホームに入居しようと思ったきっかけは何ですか？

A. 親元を離れたいのと、いろんなことを勉強したかったからです。



Q. グループホームでの生活は、実家の暮らしと何か変わったことはありましたか？

A. 自分がいかに両親に甘えていたのが分かりました。親は心配性過ぎる部分もありますが、親は親なりにやってくれていて、何も言わなくても私の思いを汲み取ってくれていたことを実感しています。

ここは女性の入居者が5名居るので、家ではすぐにやってもらっていたことも、他の入居者の順番を待つことがあり、待つ時間も大切ということ学びました。

現在は一人部屋、初めての自分の部屋が持てたことが、とてもうれしいです。早く自分の部屋がほしいと思っていたから。実家だとある程度の時間になったら寝かされていましたが、現在は、自分の部屋に入ってしまえば自分の時間を持てるのがいいですね。一人の部屋だけど、遅くまで電気をつけているとみなさんへの光熱費の負担が増えてしまうから、その辺りは注意しています。

Q. グループホームに入居して、大変なことはありますか？

A. 困った時や緊急時、実家では親が私に代わって連絡をしてくれていましたが、今はヘルパーさんに補助して頂いて自分で連絡をしています。親元を離れて自分で決断することが増えて、いまだにどうしようということもあるけど、その度に入居者のみなさん、そしてスタッフのみなさんに助言してもらい、助けられています。

Q. 何か今後の目標はありますか？

A. 何年後はここを出て、地域で暮らすことを想像しています。この生活で力を付けたい。それから、筋力、自分の持っている力をこれ以上落とさないように、歩行訓練を続けて、女性ならきっと一度は憧れを持っているバーจินロードを、いつかは自分の足で歩くための準備をしていきたいです。



彼女は、しっかりとした目標を持ってグループホームに入居されました。今後の夢を語ってくれたチャーミングな笑顔が、とても印象的でした。(宮城)

2018年10月26日(金) つながる? 飲み会

“知的障害者の暮らしを支援している事業者”が集まり、三鷹で飲み会を行いました。参加者は多摩市、武蔵野市、八王子市、府中市、小平市、品川区など、様々な地域の「ガイドヘルパーの事業所」、「ホームヘルパーの事業所」、「相談支援事業所」、「グループホームの事業所」、「通所施設」、「放課後デイサービスの事業所」で働いている人たちで、「知的障害者の支援」について情報交換をしました。

僕自身の知り得る範囲は、ホームヘルパーやガイドヘルパーという限られた領域だったので、他の領域から見える様々な意見に触れ「なるほど」と頷くことが多くありました。自分の周りの景色だけでは、知り得る範囲は限られてしまう…自分の周りの視野を広げていく取組みの重要性を痛感しました。

次回は 3月22日(金)小平で行いますので、ご興味ある方は小林までお知らせください。ヘルパー、障害当事者、家族などなど、誰でも参加してOKな飲み会です！是非一緒に様々な人たちとつながりませんか？

派遣部所長：小林 延芳

2018年11月30日(土) 祝・喫茶小林(家族懇談会)第2回開店！

会場は前回同様、喫茶グラナダを貸し切って、インミタかでヘルパー派遣を利用している方のご家族と懇談会を行いました。

今年の参加者は7名。久しぶり！という方や、初めて顔を合わせる方、名前は聞いていたけれど、やっとお会いできたわ！という方々と、様々な話題で盛り上がり、あっという間に時間が過ぎました。皆さまが、打ち解けて親しく話し合っている光景を眺めることができたことに、感謝です。

終了後、参加されたご家族から「楽しかったわ。また是非やって。年に一度でなくて、何度かやった方がいいのに～」などの言葉をいただけて大変うれしく、また有難く思いました。

次回…第3回を開催するべく、店長(派遣部所長)小林が魅力的な企画を練っていますので、楽しみにしててください。

★前回に引き続き、快くご協力いただきましたグラナダさま、誠にありがとうございました★

派遣部職員：滝 美央

☆派遣部の職員だった合田 晃さんは、2018年12月をもって退職されました。

リレートーク（インミタカに関わりのある方に寄稿いただいています）

いま 「今までと、これから。」

ケアスペース月の光 代表社員 安部 順子

平成29年6月より、三鷹市新川に障がい福祉サービスに特化した訪問介護事業所を始めました。以前（20年位前）から杉並・三鷹・武蔵野・調布・小金井で、何らかの障がいを持つ当事者さんや児童の介助に、いそしみ、気づけば、4社渡り歩き、やっと、同じ志・・・とは言っても個性豊かな仲間たちとタッグを組み、登録のヘルパーさんを入れても15名くらいですが少数精鋭で、念願の障がい福祉サービスに特化した事務所を立ち上げました。

25年前の私は、医療に興味があり、ゆくゆくはナースになる！なんて病院に勤めましたが、いろんな患者さん、ご家族、医療、ナースを見ていくうちに、看護じゃなくて介護を私はやりたいんだ！介護だったら家でできる。死ぬまでかかわれる。私には向いているかも？なんて何の根拠もなく・・・しかし真剣に病院から訪問介護事業所に移りました。そこからは、高齢者様の介護か？施設介護か？いやいや障がいを持ちながらも、地域で懸命に生きる方の傍で何かしら役に立ちたい。と、心は石の様に固く強固になり、現在に至りました。

この話の裏には、若くして内部障害を持ち、最期は精神を病み、生きたくても今を生きる希望を持たず自死してしまった私の大事な友人が、亡くなる前に私が介護に向いている。絶対天職と背中を押してくれた事があり、その当時傍にいながら、何も知識がなかった私、介護どころか？友人の苦しみさえ理解する事ができなかった、幼稚な自分自身をとことん責め落ちて、再び「介護者になる。約束したから。」と1歩踏み出し、25年経ちました。あつという間です。さて、事務所の名前『ケアスペース月の光』、多くの方たちから、「月の光・いい名前ですね。どうしてつけたんですか？」と、聞かれます。私が昔から月が好きだった事。あの夜の闇を照らすやさしい光、そして不思議な力（エネルギー）を持つと古来からの伝説。はたまた天文学的には、地球の地を分けた兄妹なのです。今では、地球の周りを月が回っていることで、地球磁場のバランスを取り、潮の満ち引きや生命の誕生などなど、そして、私たち地球や月は、太陽の光（恵）を受けて生きている惑星なのです。地球が皆さんだとしたら、昼は太陽が、夜は月が照らすのです。少しロマンティックではないですか？

そんなこんなで、順調に新事務所は1年半経ちました。新川と言う土地柄か、なかなかヘルパーさんが集まりません。今はまだ小さな事務所ですが、夢はでっかく将来は、三鷹の地に大きな一軒家を改装し、地域の皆さんが集まり、緊急預かりや訪問介護もできる拠点を作りたい。そして障がいがあるとなかろうと、この地域でみんなと共に暮らし、泣き笑いしながら、その人らしく私らしく生きていく為のお手伝い、それが今一番やりたい事です。でも、私1人では何にも出来ないのです。私の話に興味を持っていただける方、是非ご連絡ください！

安部さんのプロフィール

九州は博多生まれ。23歳で東京に上京。スタイリストで身を立て、その後介護職に転身し現在に至る。難病の方のケアに入り障がい者福祉に目覚め、平成29年6月に「ケアスペース月の光」を仲間と共に開設した。

連絡先

合同会社ケアスペース月の光 代表社員 安部順子

三鷹市新川4-24-7-204

電話番号 0422-42-2905 メールアドレス tsukinohikari@myad.jp ホームページ <https://cs-tsukinohikari.com>



よふ いと じつわ 「こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話」



げきじょうこうかい び ねん がつ にち
劇場公開日 2018年12月28日

しせつちよう かねこ ようすけ
ぽっぷ施設長:金子 洋祐



もう15年以上前に描かれていた原作が、大泉洋さん主演で映画化されました。日々、障がいのあ
る方達と接し支援している中で、この映画のことはずっと気になっており、今回、観に行ってきました。

物語の主人公である鹿野靖明さんは、進行性筋ジストロフィーという病気になり、手足を動かすこと
はおろか、自発的に呼吸をすることさえも難しくなっています。それでも、病院を出て、看護師やボ
ランティアたちの介助を受け、鹿野さんは地域での生活を続けます。

映画のタイトルにもなっている「こんな夜更けにバナナかよ」というセリフ。これは鹿野さんの指示を
受けて、ボランティアから発せられたぼやきです。真夜中にバナナを買いに行かせたり、常識の範囲を超えて要求される
本人のリクエストの数々。鹿野さんの言葉に振り回され、時に疲弊しながらも、みんな鹿野さんから離れられずついそばにい
てしまう、そんな人間模様が描かれています。時折垣間見せる看護師や介助者の心情や本音がなんと印象的で、思わず
うーんと唸ってしまうことも。

常に他人に生活の一部始終を見られ、プライバシーをさらしながらも、その生活を選ぶ。時に感情をぶちまけ、周りの人た
ちに全身で、全力でぶつかっていく。人にはそれが「わがまま」に映るかも知れませんが、僕にはそれが人として当たり前
に生きる姿なのだと思います。

笑いあり、涙あり、そして複雑な恋愛事情ありの、登場人物の揺れ動く感情は、この映画の見所。福祉に携わっていない
方にも、是非ご覧頂きたい逸作でした。



ねん がつ にち ど かい 2018年12月15日(土) クリスマス会



しよくいん なぐも じゆん
ぽっぷ職員:南雲 潤

三鷹市北野ハピネスセンターと共催で「クリスマス会」を開催しました。身体を動かすレクリエーションとして、キックボクシン
グ元日本チャンピオンを相手にキックボクシングのミット打ちを体験したり、ヴァイオリンとピアノの演奏を聴いたり、伴奏に合わ
せて「となりのトトロ」などを歌ったりと、大変盛り上がりました!

クリスマスメニューのランチボックスは、三鷹市内の就労支援施設に注文して、サンドウィッチやケーキを食べました。お互
いの利用者が交流する良い機会となりました。



み た か し しょう しゃ そう だん し えん 三鷹市障がい者相談支援センター ぽっぷ

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-18-2階 電話 0422-71-0901 ファックス 0422-26-5141
メール poppu@dream.ocn.ne.jp ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/>

しょう しゃ けい かく そう だん 障がい者計画相談センター くも

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-23-A102 電話 0422-26-7229 ファックス 0422-26-7229

しょうがいしゃせいせいかつしえん はけんぶ 障害者生活支援センター インみたか 派遣部

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-23-A102 電話 0422-71-0902 ファックス 0422-24-6266
メール in-mitaka@iaa.itkeeper.ne.jp ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/inmitaka/index.html>

み な さ ま
皆様からの
ご意見・ご感想が
わたしたちの励みに
なります。
ぜひきかせて下さい。
お待ちしております。